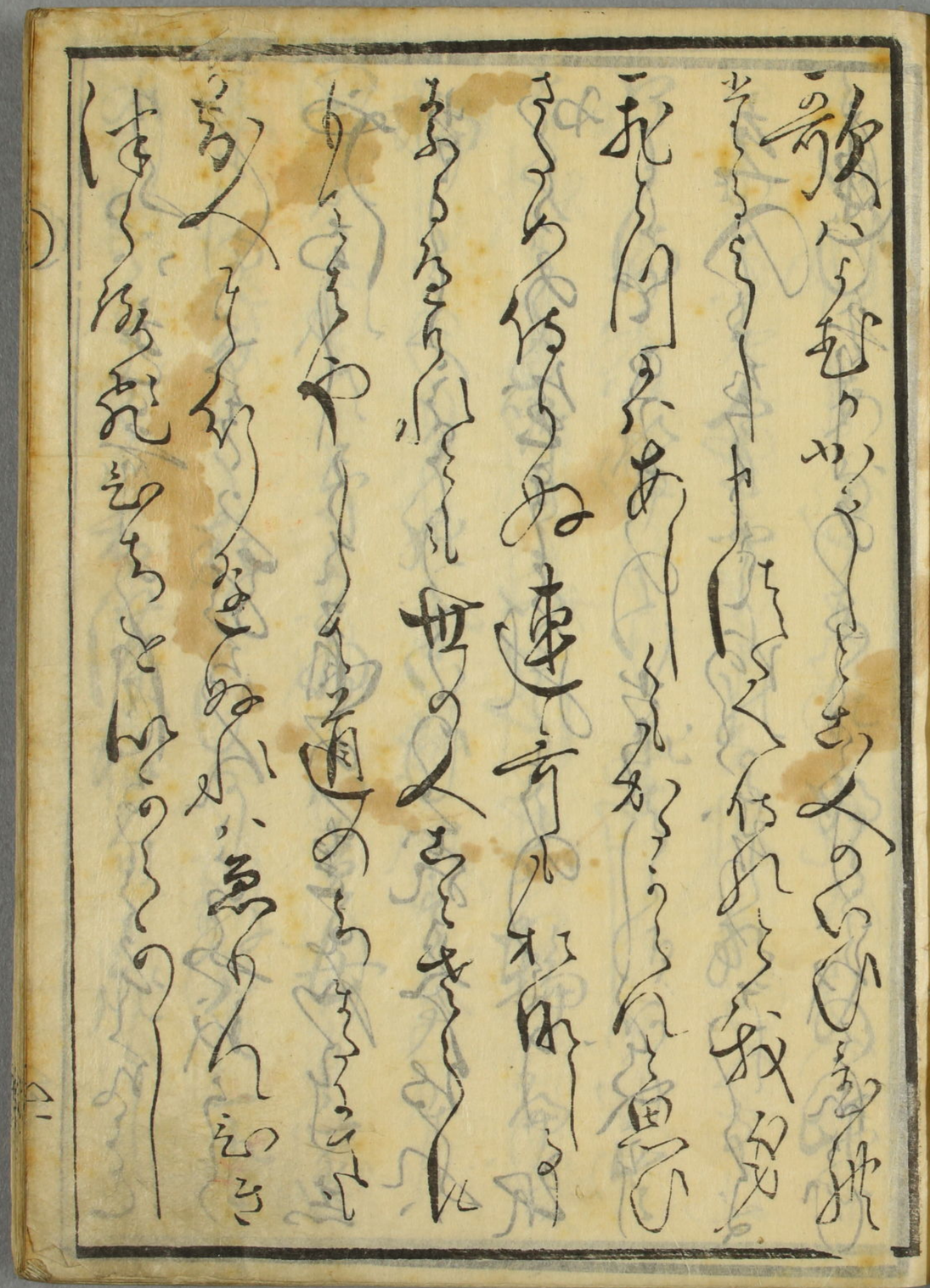
へ 5
4348



門へ加5
號帙 727
巻

門へ5
號帙 4348
巻

されハ連歌の風ハいつれと
くハしくきこえんとおもふらう
やまとしくれ着道の本意を志
出らしきうつの気色見えねハ
かゝるの風情に月のよの紙
ことゝもの出てしる文字
立のゝ気色ともゝあるまゝ
連歌のめてたすたれんむ

といひてあかしのにかしこめ師
くとおもてそ宗祇れいとも
以倣の伊まゝ和て
まくさのさきにハ輪命
聊まくもの雅まて
のしハてもハ母の遷
そ南ハ都ひしもの一
のとうハ和漢聯句に能として

心はつゝしみ志のはゝ人にも
ふかうおもひて末のよのために
うしなふことなからんことを思へ
蜂はつかへのために合礫にあつまり
ありときくのみ深山にいる
とをきふみにあるは執して
うしよも事をなし誰かるゝ
よひし玉くもの影にしも

みさのきゝまことのいろにもみえ
つゐにやあくがれゆくに
我もあのなさけあるをも
ちかく寺にいでゝの口をとむ
まのうちの手にとまるも
はかなくもおもひのほかに見ゆる
人の身ははかなき世の中のならひ
思ふことをすてゝゆくものと

○岩舟　水をたゝへたる舟の字五百時より天皇橋舟橋
同　堙和ハこれを見るべしとあり
（そのやうなるものなり）
日本紀に
○伊勢の神　名不詳伊勢
ヤ延伊勢鏡ホのうちいりたるとて
ハ名なしの神とまた傘と曰あるそ
の〳〵ひとつ〳〵ものとて
あるなるべし名なしの神と
○祈る神　意ふり伝といふ
山伏のいのり
○神宮の宮　宗ふり伊セの神宮
所のとゝ傘と神宮
伊勢かしこ
一つ
○岩　一座二いつかし一岩屋一つの四の
とゝ傘
岩一いつかし一又ハ岩屋

[illegible]
二つの内に岩橋山[illegible]石も[illegible]みて一

○石大矢

後絶[illegible]

○いと[illegible]

水色に[illegible]二[illegible]

仲秋[illegible]八月十五夜八

八幡の[illegible]長元年中に夷[illegible]

[illegible]

○いと[illegible]

仲秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

○家つと

[illegible]四又番[illegible]の家出の家ホ家[illegible]

[illegible]

○家の風

[illegible]

○家の子

[illegible]

○家と出る

[illegible]

○稲光

[illegible]

○岩垣

[illegible]

○岩末

[illegible]

○石の岩

[illegible]

○稲妻

[illegible]

○板

[illegible]

○池

[illegible]

○池田炭

[illegible]

○一文字

[illegible]

よくよく考ふかけりするまハ七句え七句嫌ふと
云ハ同し面の内え面かけて八三句去り
○儀(イクワ) 只二ツ名にて二季に ○市(イチ) 只二ツ名にて二市の内句去也同場
市の嵐(セイラン)嵐なとと云事 名にて一ツ上四ツへ 兵衛なと何にても季に市一ツ名にて一山
えて一ツ上三ツ去り ○庵(イホ) 四ツ内ハ一ツ去りえ一 季にいつれ二ツかり
宮の内 一ツかりくしとハえくうしにハ屋号に居
一ツ折え ○一騎當千(イツキトウセン) 去りし三句 ○入逢 入の字ある字三句嫌
句え入れハ晩鐘(バンシヤウ)ト出く 夕晩暮此字ありし二
鐘四ツのうちなり ○妹(イモ) 妻ありと ○いとけなき 人倫に
詠の字にて付ても 嫌定く 嫌え
うらし幼稚(ヤウチ)と出しえ ○生死 無常にうち嫌ふと命 又に生死
りとかりのかのお嫌にも 小二句嫌ふ無常嫌なり
○今にかなしかも ○いはく 何の字新句去嫌 ○いさ
かふかひ ○歳月(イクカ) 日次の月 あらしおかハ二句嫌
二句嫌 二句嫌 ○いつよ さらしてふと嫌 何れも二句嫌

○いつれ いつくいつちなとなとハ
いつ了此ほとも二句去り ○いさり火 猟火え季に
火五 ○偽(イツハリ) まこと二句嫌季に偽空言(ソラコト)と云 火も面嫌
の内 にて二ツ折とく嫌し ○いつく 四ツ
いつちいつく四の内ハ折を ○いにしへ 二季にて七句嫌古の字に二句え
嫌なる去ちハ面とさふ 季に大古上古中古往昔古
代なと今茶ホ此二ツの内え出るくしまと云 何て嫌ひてあれかりこせき
古人なと古年古酒ホハいかめし入れ三句去るなし
○いはしりなと一子嫌と出る何の字の三句え
季に連ね来て二句あれハ嫌に三句
又二折とえてさと一し季に命二句命に ○命(イノチ) 二季かなし
其のを二句え又其の命 其のを折とかゆる其の命に 物ホの命
なりて 意の至れをみなけらとも命無常なり
○軍(イクサ) 一戦軍一季に花軍矢戦え見ハ言宗と出てさ
ひとえうれ花えし秋のひ花かれしてかうく
○犬(イヌ) 一季のこれ一犬名れ一成一 ○糸(イト) 出るとをかくて四ツ去り
何れにいれとさくふ 但しやかの糸ハこしらえ

ゑべし○いつまで草　詳なり○いろはやん　此詞なり
の事なり百韻などに一座に上の句下の句に
ありて二ゑべし句の中にては又なべし
ろ○樓（ロウ）高殿の様にて傘二ツなり○盧（ロ）路（ジ）庭園を路と云なり
は○橋（ハシ）是二ツ重ねて二ツなり姥傘に橋是二ツ重ねて一ツかけたり一ツ
の内には上にて三ツありてまつのかけりそれ
階段の事なりうきたし一ツありて階（はし）こつまぎつのそれしるべし
二ツ○橋（ハシ）姥（ヒメ）人傍に紙又翔紙なり傘に二ケ所く
なり○柱（ハシラ）一ケ所に紙て但句柳くりくしつ姥二ツの内く
○墻（バ）一ケ所の内に一ツ紙もしらべ樒（シキミ）
七ツ四ツくらいとよみて又二○瑞（カヤ）山（マ）に山の桜なり
ゑべしる仰せる七句姥の花と黒姥

川をさ道をく八七句姥傘にそれ五斗さ○葉（ハ）守（モリ）此神
下り棚の事五斗なりし姥を姥べし
えとのみ姥○葉（バ）あるるなりの雪八句を姥三雪
鞍なり　ゆくらく八え句ちし傘をくさ
の在所の五句を之葉一葉を四又えふくなりまそ一以上○端（バエ）
五ツ名所なりの作も一ツ又なりのそれつなり
イ○花（ハナ）　二ツ姥○若（ナ）葉（バ）なし姥なり下の名所の
名（ナ）の花に云の葉と句姥○花（ハナ）四名所四ツの
えべし○若葉に云の葉とさり姥○花（ハナ）花の句桜
ゑざる句なりがる姥○葉（ハ）大（ビ）四又花の句七句姥
うし桜なり八名へうし○花（モミ）葉（ジ）
ありすらく桜に○花紅葉
二ツなり○花の霜（チ）るに
梅さくらの名所を姥なり
何とれのちる八え句なり○葉の香に
袖の香
を姥

○花の匂ひ 細の香人の香 七句きらふ ○又秋のよ雪 白をきらふ
たゞ秋よ 花ハ秋らし ○萩(ハギ)ハ秋の宮城(ミヤギノ) 秋の名所に宮城野の名所 酒まで つゞくやうにまとひ[illegible]何も皆よし
○花よ 夜の字を嫌ひて 八夜之 其外よ[illegible]して 八夜之 ○夜の姿(スガタ) 夜の細共 不可然るなり
うく夜よ二句之 花衣同断 ○花皿(サラ) 花之字 八夜の字之式法ハ 夜の時この花を包むゆへ也 ○花の
瀧(タキ)の波(ナミ) 水辺よ雑之 但花のちる 神祇ハ夜辺よ嫌ふし ○花ちり 花と雑之 水辺も也
うく地こハ二句之 ○春の日 二永日一遅日一以ハ句をへてきらふ 春の日二花宮ハ打を隔 永日まで見
みゆきもとく 又打越し ○花曇にて 句を嫌 ○春風 二季風 嫌ひて
又きらふ 一傘よもし 凡二季の風もあり ○初の字 四つ迄 きよきい 五ハ上四 つゞきも打を隔る してまた四く

それに初の字なれ共ふし見と嫌 ○姫の字 只之初の字同じ ○篝(カガリ) 一季也 只火之 ぬしらし
それこえしもなれバ 三句去とし ○蓮(ハス) 一季の假名ずる物 ○鼻(ハナ) 一季の句 又火 ○鶯(ウグヒス)
又も又きらふし
山桜の句を[illegible]旅もの事の其もし濡るもの向ニ
又一季二一傘に白にて吹かくし鴈の字に打を嫌 ○花を
嫌ふ句にて好みよしろいと旅は非え ○えうるきハ 只二季も二傘に白
縁(ハカリコト) ○ いハ上にあらし
○謀 それ四季の外之傘に白陳 ○ 手の日
ほうけい母ちの思ひと申二 ○天の宮 まく東宮(トウグウ)のまへ
それにてハ永きハ打越ハ永 ○ 傘ハ白の字も宮と号し
日遅き日ハ春にもし ○夢のうきハ 夢の心ハ打越ハ ○花の
もみてハ詠之 月の名に ○空の雲 雲ハ世の中
春の名ハ春し ○とじの窓 月の窓に 星を嫌ふ
雪をも ○ 窓を嫌ふ

○花やか 嫌ふことなし ○花筵 ムシロ 山などに嫌ふなし 二句去

○花の都 嫌ふ ○晴る ハレ 雨雪などの季をもたずして 俳諧にも同じく降物の
あらはれたる陰気の事なれば水辺に云なし 三句去 今日絹地
の云る日月晴るなどに云ふ 打越嫌ふべし 俳言 是は定
実なるものなり 日月の如く 二字也 ○濱庇 ハマビサシ 浜の家のあま
字なり 両句去 二ノ五ヘ へだつ ○ 萬に宿 ヤド
又浜の家など きらふ事なし 俳言とも云

傘のかさ 是を中ちの嫌ぞ 三句嫌
古来とは非え
句嫌に嫌ふし ○初霜 ハツシモ 冬の季を定
ふるくは嫌ふ ○ 春に 同じくなれば ○ 蛤貝 ハマグリカイ 菜の春
水辺ニ非ズ ○ 針 ハリ 初経に 嫌を
て ○ 法師 折に 許 お人倫 拂小 二句去 ○ くら 嫌き ○ 鎌 カマ の
八人倫 折に 嫌ふべし

ちからなし 紀衣なれ ○ はやしよ 祠 小祠も 嫌 ○ 芭蕉 ハセヲ 秋也 一座二一葉
者草 シャクケ 折をへて 又嫌ふ 去るべきには ○ 原 ハラ と云字 原は嫌 二
句也 萩の 蒂 フキ のもの 四句去
句去と 嫌ふものは 各別に
名所の 原は
よりかへる ○ 遥 ハルカ 二句斗 ○ 春の 嫌に むかし
人は 嫌ふべし 身句を嫌

(に)

二ヘ 執貝 神祇之 二句 去らずの事 嫌ふと云は 各
別の 傘に 挑大は 内裏 又は 神社 など へ きる
ものは 云ふ も 生御 ゴセイ 朔 シャク 日 の 事の 二 句 去
の 事は 東 ケイセイ 京 ヲ の 法 付 より 嫌ふ 紅 の 元日に 入りて
肥後 ヒゴ 国 ウドニ 宇土郡 長浜 コウリナガハマ より 出づる ○ 健火 ニハ 神祇之 名なれ
ますの 角 を 出し あるべし 面を 嫌 傘に 神
楽 カグラ の 名 に 嫌ふ 事の 月 に 嫌ふ 打 越 嫌ふ ぞ 一 し
お 月 に は 嫌ふ 二 句 季 は 名 の 神 祇 の 嫌 之

○庭(ニハ) 只二寺に一皇居に一庭の事也 八ヽ字をたすけれども
らくに続くべし 庭訓のこゝろ
○庭(エ)ハ 御切(ミギリ)砌 坪のこゝろ嫌 ○庭に場(バ)ハ 七句嫌 ○庭の脇(ワキ)
山(エ)に 山の内は他に傘に ○鶏(ニハトリ) 一折に一もとの鳥に庭と折を嫌 傘に
山の外は二句去之 鶏ハ句数ハ比丘ハおもふに他に傘に
こたれの鳥を嫌ふ ○尼(ニ) 公(カウ) 一尼(アマ)一比丘尼一 ○賑(ニギヤカ) 賑ひ
らずうけ其為嫌之 ○ 尾 云
朝二折を嫌べし かざるらく云 詞 ○匂ひに 香(カ) 七句 嫌
人為鉄かるかくて二折を嫌べし 匂ひに 嫌
こ南りの下れ句 二折にに嫌べし ○西(ニシ) 二ヶ所方為嫌
又二ヶ所にも見て ○錦(ニシキ)に もみぢ見立て傘に ○ 一 らぐらにも
花よりハ猶を見しにし 他 見うらなき 又句を他へ
名をそへ見るに見するに ○ 麦(ニ)へ 竹の子 挿花も季
色をとれる見るに べし 八季として見る
ちぐさ ○ にかはり 詞ハ(ニカ)詞 やとも嫌 ○芭蕉(バセヲ) 扶桑一 或二 六 之
丸衣花
者(シヤ)草(ソウケ)おもひて又は見し おもふに ○原(ハラ)と云字 二所 原と云 二
むかしを(フモト)麓 あくに入るまで 他の句 兼
句とハ麓の(モト)下のるゆへ それにも 数
らよーうにのお見かに云に おもけれ句を 初のに
おりのへるかへる る 云 むかしさ
人ハ好(ツ)くべし ○遥(ハルカ) 二句 ○ 其 句 嫌
(に)
(ニハ)鞘(ハ)別 神紙に 生にも二句之 ○ 嫌
うのりにきあもとあるのと云べし 傘に抱き 内裏又ハ神社 六道の 嫌
のほえいもへたるの 雲(ケイセツ) 鶏のもの 嫌
肥(ヒ)後(ゴ) 肥ウ 宇土(ウド)の長浜(ナガハマ)... 紅葉の
ますの更を よう る 云 ○ 庭火(ニハビ) 神 面を嫌 傘に
楽(シラ) 乃名之 折を 之への 事月 にある おもにけれども の
おは らけ 一 おもに 季 ハ名之 神 祇 も 之 もの 一 し 神
おは けハ おもて ハ名之 神紙 をも 成之

○庭 只二寺に一皇居に一庭の物し八ヶ所あなかれとも
○庭 しきりよ数くし 庭訓のそろり
切坪のこと ○庭に場 八 七句嫌 ○庭の築
山 いふ折は非人傘にて ○鶏 一折に一はれの名所れも折にこ之但
山は折は二句去之 鶏は句前はより折にて非人傘に
とりれの名詞ろり ○尼 公一 尼一 比丘尼一 ○賑 賑はひ 申への
ぐろけ 去異名之 ○ ○句ひ 小 香七句 ○ 小 嫌
朝二斗名ぐし かぐるるをいふ 詞
人名類にて二斗名ぐし
之偽りの下れ句 二斗同名ぐし小等の ○匂 二一両方両滅
又二句之一 ○錦 下りみちなくにし 傘に見るよ
見れとも折にし 名ずかろ句し 句を他 [illegible]
花なくは雅なし にし の 若なる竹の子 抜ねよ [illegible]
名をみなろさすよさ 八季をおゆる

松つけ日異名けぶとの 入海 名所よ ○濁 同字
其折は折こ 嫌何にも水辺に非 ○ 二百嫌
の寺 二句之 ○ 小とおりま ごにとし詞 嫌 ○ 小よ名のめ
其等八二百嫌之 ○ 場 一 [illegible] 云
句の内よ 重字北事 とハ 一折小内の ○ 文字名 にて八小嫌
ちやうと 表すとて一以上二人庭の字と面を嫌てひちやうとゆるよそ
よめいはかしくもこすうるなり
(ほ)
星 一小斗一 名ぐし 一字句一去ち折をば嫌 的 ○洞 二堀二
の星 月斗ホハ ろよろぐし 折りよ
折り面を嫌 ○穂 四ツてやや他ち類之外 紙之絡の折をそ
他も他二句去之 他も類之去もの をふの外 そするれとやすく
○仏 只二念仏 仏師 仏法 仏道 仏弟子よの ○仏二 ほさろ 如来
内又二も一面何れにも折りをきらふ
ちとふ ○螢 折ふへき迎ひるを ○牡丹 ふうし 艸 五百去 [illegible]
面を嫌 傘に折をへて二つ

門出なども二つ三つ○郭公（ホトトギス）字を借りても云へる傘といふべし杜鵑子紀貫之の内うり
○かゆるゝ云紐を結ぶ二つ○布代衣（テイ）天書に人御ふぢ衣袋
附るる姫○搨（ホダ）ぬぐふ○干瓜（ホシウリ）ぬぐふの紙
へてのかの字四ぬぐふ○かるも老一○帽子小ぬぐふ姫
○細江（ホソヘ）ぬぐふ所を考の細江は名所
へ竈（ヘン）の字四竈たは式竈ぬ○平家（ヘイケ）小家（ヤ）二百姫○絃（ヘル）
四月日を絃てのれ○下（メ）一ぬ七日姫○新屋（ヤ）酒べやたごの家
○所篠（ハウメン）脇みきげいるぬ○紅粉（ベニ）口紅るな
ぬぐふ

○彩（ニ）小粒（レツ）丹（モミジ）紅葉（ジ）ぬぐふ二百姫
㊂豊（トヨ）の明（アカリ）ぬぐふ四の字ぬ姫○傘（カサ）
中の辰の日五節は年は時ぬ
日は紙小宴（ヒン）の字ぬ
○年（トシ）四ぬ二神二伺は年小
年姫年徳年四の内○年
小七日姫○星（サトラノ）小四の内ぬ傘ぬ挑灯○戸（ト）
八ぬ小ぬ二百ぬ
○戸小上戸下戸○戸を明て外の
二百ぬ○ぬ戸二百ぬ○戸を扣（ノック）戸をたたく○戸小宗（ムネ）
百姫のまの戸居ぬ○戸小傘
戸ぬ五ぬ

○苫葺 屋根ニ而二句去 ○苫屋 屋根の名也 此ハ舩又ハ家にもあるゆへ 又屋べし

○苫帰し 舩にかぎる ○友 二ツ人にして似るハ友なり 物の友あるひハ朋友と云て 其外にも

まゐらせても用ゆべき所 ○殿 町家ト上臈とのご殿の内にまゐらせ

此の友も四ツの内也 二語家と名を云つゞけてもよし

此内也 おほやけにもとの内にもよろしく 宮殿家上ナどにくるしからず 又はよみ

て又四ツの内ニも 床の事也 裏表に有べし ○床 床に

座禅の床 寝床の床 梁代ナ木の床 多く此ニ床の字也 床は床居

お多く用ひて 此はこの床の字七ツ也 傘に床居

あるに一句にて地に一ツ以上にのる 句に当るなりとも 床の字ニ用

床の山 床の浦など内に一座とうへて用ゆべし

○床に ゆりしきを二句去 ○木賊に 木の字用ひて よしかはし ○鳥 鳥は只一羽と

見る一ツ分る一村と称ばの名一羽一何れも同じく二ツに見ても 三ツも

三つ或いは一ツかゝる 村をこの内に一ツかゝりて又云つゞけて一物ずつの名に

（以上、欠損あり）

孫の名か此ハ白の名也 右四ツの内ハ流毛の名也

名前付で三いくとも此の一座をのぞむ 文一以上五也 ○鳥甲 鳥をかぶとに作る也

○鳥居 あまりいくと 鳥の字 居の字 ○鳥の啼 小鳥の啼にて一ツ也 付句に去べし

○鳥の巣 鳥の巣なれば 巣の字生物にもよし ○とりくの名 生物を三句去に二句也

○虎 一寅一虎色の猫又ニ一 傘にあまり千句にも一ツ也

されハ 俳にハ人のかゝらぬ虎の名也

○鳥の啼に 鳥のさえずり鳥の声 ○泊舩 トマリブネ 此ハ水辺の字 たゞ三句去

○泊に 此ハ辺名をさるハ ○燈火 一法のともし火 一灯籠炮烙

水辺なり 又一ツ 傘に灯一個の灯

一法の灯一ツ又常灯 灯台 ○ともし 夜の灯火に傘に

灯をとる内に又あるべし 以上四也 夜の打ち床をとる

ゐるハ此のかゝる三ツのうちに照射と ○遠 遠矢の遠き 浅き

ことし灯の裏に一ツ有べし 同前 の字付句名前 傘に

をの字
三百五

○止に羅あり傘はの物より○遠て
やちくるる
ともよ二百姓

ち

千早振千の字三百之字の字○千の字四せんと云
振の字二百姓へ
○千里長さ百姓人○路百姓○街二百姓
○中風れよ二百姓○路道ふ三百姓無の字の字のりやうぶ
のるれ又用傘ふ路○蕨の輪えんぶ子ちの
此字五百云し
の字ハ二百之道雲ち
○塵二ちりの世ちりれ二の内じんこみちを
一つ
ちくし
云くてちく
○蔽花ちぐてやうてハ三百云
ちよ云りく○蔽のちハ面を姓傘ヨ蔽の字ハ字ちく

○児児子珠ちご橋ふの門よ
又ちくし児ふ子面姓○茶ちや茶屋二ちの茶ちん茶の内
ちぐ一茶屋茶ちんぐしふハ表ちる
俱茶屋と同ちくハ出ちちよ一りこ
○物大ちやり呂二ちこ
二

の律の調然○龍神作きこ○龍宮水辺こ
紀伊神
○茶碗の滝水辺こ紀人○里一里二りの里れ
人茶ふ之紀ス○ちりん
りんぐちの茶屋茶を云ふ
ハ物りひ此よ打をきふ秋こ
ぬ沼ニ○敵巾帛ぬうつ紙こ○主人偏之紀スちりハ人
うう主張を器こ○塗師人偏之ぬ屋こ
えても人偏○ぬりん
るぐの三るのぬ角ちの角も四こ
ぬんちんちふちちの三角ちもちく

〇ぬるふ　ぬれて二句嫌　袖と〇平ぬの　ぬのは二句こゑのぬ八句　さらしくハ不嫌　白さらしと嫌
〇濡　水にぬれてるこのかわざ嫌　傘にぬらし句持を云て云事〇ぬるみ　手水とハ二句さトゆ
〇縫の小袖　小袖ぬふおわ　ぬふ　袖よりその　と嫌　まぎれ七句嫌
〇るてのるる　ことハ行てきらる又　句を二句るきの詞二句去〇るそ通り　二句こ　きよそ
ころくるいれるなどの〇るりんつゝんぬれんのるをとハらひ、行る　手おく縁の名の日ーらん跡さんちとの私人後ーゟ不嫌

〇園　只二条ゟ二傘ニ足ハ上之人の〇小野　二名所ゟ二　名字るごに云ても行の内く　其　肉ち　四ツの内ニおを之てきーし傘ニ重〇遠近　二句ちと　斗ニ　二ツ之人の名字も之の肉る　傘　こち花　ことしニとちらゝこ云てみるときらをとちて斗し、二　もさえしとちこちるをきちちきとも二句きり〇いさ　日

一去の日よ　曳と嫌〇小舟　一あまをぶね不也　ちいさきふね〇小と小　二句　〇おしろ
のをとに　小のをとれ小の字不嫌男舟　書ゆくこさを一字小の字付句嫌〇女郎花　ヲミナヘシ　一てをを女ー　女の字ニおを嫌女らし八ーと之て今一ツ去〇をし　二字も不嫌
一し男ゑべしと云茎ゑ元二乃うろこ　〇をし　ずゞ　ーー不
ソ縁のるけこ〇とりのやるこ　底で〇踊　ヲドリ　秋之り中ーの物一座ニ一こ　生れのをごりしの
拙物ニ二句〇とりのやるこ
とうりハおゝ〇落葉　ヲチバ　の色　イロ　おち葉ハ色るれ花色　の字不去れて後之〇ところひ一
くてきーし
おうるよ〇小さ　ヲサ　紅色と〇音に　ヲト　一去　二句　ひゞき　嫌　意ニ句嫌　ところれ二信の
みさー
字をそうまてよむ故ニ〇親に子　ヲヤ　二句嫌〇乙女子　小宮衣非祇
其二前ニも二句去る　ニ生るちす
四ツし傘ニ女ハ五前千句ふも一の物るれハ二ツハゑそゞくし乙女の二くハゑぞ
同字るれ花面と之てきーし　乙女郎ゑ女ニおを嫌め松女　猫め大めとうの

[illegible]人偏ノ[illegible]ガ女房女[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

○神(カミ)て弥(ヤ)行弥(ヤ)と弥(ヤ)々弥(ヤ)不拘七日なり○神(カミ)月(ヅキ)て七日なり

○弥に傘(カサ)に付て不苦○神よ弥さひて云て七日迄傘(カサ)さひと八上久と出古宅名不深山滅地るしの只ぢひ一き西と云るぶか

み付て不苦云社(ヤシロ)祭のこと云て祭さひといで水

四の門と上久と出時八○けろ新(アラ)けろのりろ

弥(ヤ)祭の云系に拘す蛇(ヘビ)の如くにて八結

傘(カサ)こびろ張(ハル)ろ京今の弁に変ふ雨(アメ)ぬしびけろ

のゆゆろ矢の日と成(ナル)地そとよりる八陽(ヤウ)炎(エン)と出て

日ろ有て下(シタ)に蔓(ハビコル)のうへにたちまちと服よさ

ゆと云ぶ云ぶ云ぶ云出と結ぶと云日中の國の

結(カデラウ)玲(ヤウ)に似ろ知あきり(鳴れ出日中紀ふ知あきり)結(カデラウ)玲(ヤウ)

も皆ぶ皆ろ此ろれ八紐之又出出とけひとと一石中

かしまろ〳〵しとろかしてろ此出て出て出ろみ

えぶ陽炎の如ろ知ろく消ろ

○懸(カヽル)水迄ろ川の字付ても不苦○川舟張小地又浦おてもつるきみ小舟

おかのも張小地又浪の川舟八ろ

○弥(ヤ)佛(ホトケ)しぶきて八弥紙尺書

屋ぶ〳〵一ろ〳〵ホの門○杜(カキツバタ)只一ろ〳〵花ト

今〳〵一ハ上ろ〳〵

門の字七日姫出の字ホ○かろ地(ガ)家只一石不天我を知ろ

二日居ホろかしと

とそろ毋のうと○春日(カスガ)日出の字ホ日の字ホ日の字ホ月も不姫

居ろ〳〵毋ろ

○明四ろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵て又二ろぶ〳〵傘よりんろ云ろて

て一門出一ハ上二ろ〳〵ろ〳〵て上四の四ろかぶぶそ迄ろ書ろ不日のホ之但ぶ

姫門出〳〵ろ時八門四の内ろ門ろ○門よ二毋ハ山門

○かろ〳〵姫色門ホの字ホ入ろ八陽炎ろ色ろ化ろ

○門 [illegible]

○垣 [illegible]

垣 [illegible]

○垣 [illegible]

○かさ [illegible]

○かさ [illegible]

○上 [illegible]

○拾 [illegible]

○狩 [illegible]

○掘 [illegible]

○鳥 [illegible]

○敷帖 [illegible]

[illegible]

○風 [illegible]

○かいこ [illegible]

○蓋 [illegible]

○風 [illegible]

○冠 [illegible]

○傍 [illegible]

○方 [illegible]

○數の字 [illegible]

○かさ [illegible]

○干 [illegible]

[illegible]傘にぬるを用ゆ○かくふ[illegible]の名の字二百○かくごのく[illegible]二百○かくれ[illegible]
[illegible]○かさ[illegible]一枚の花かさ二かさ拡一[illegible]○かさ[illegible]
[illegible]○かさ[illegible]

りうてう[illegible]大さ二百く○かち栗 種地に飛ス○かへる 帰 ばち 二百く○かまど 竈
大さ二百く○須の雪 [illegible]飛ス迷惑[illegible]○霞 [illegible]
[illegible]○影 [illegible]○陰に
[illegible]○合戦 [illegible]○かふと云 [illegible]
[illegible]の名二百 ○唐 [illegible]
二百○搔 [illegible]○刈田 [illegible]

二[illegible]字[illegible]二の[illegible]
[illegible]○かうかい [illegible]
○かふ [illegible]○川のゆ [illegible]川
[illegible]の刑 [illegible]○鍛冶 [illegible]
の芦 [illegible]○蝙蝠 [illegible]
○刀 [illegible]○[illegible]仙 [illegible]
[illegible]の王[illegible]高 [illegible]○鹿 [illegible]
[illegible]○かう[illegible]云 [illegible]
[illegible]傘 [illegible]
○[illegible]○悲 [illegible]

紙 傘ノ名ニテ○買の字ハ○紙子 云れ○蔵の
網 取ニ通ル○かと角ニて 隠のかくれ
ゆきと云ス○かと角ニて 隠のかくれ
と云 ○かくれ 泥ニ与ル

(よ) 金所 月に代 月ハ代ノ略 ○世に代 世ハ二世 ○世 ハ二世代一年ニ若ク代一年
代 ハ二年代一年ニ若ク代一年 代ハ代ノ略 ○世に代 世ハ二世
代ハ代ノ略 ○世に代 世ハ二世
二仏の世二ハ二世 過世ハ世ノ略 ○世ハ世の人ハ年世前世 ハ仏
世ハ世ノ略 ○世ハ世ノ略 ○世ハ世ノ略 ○世ハ世ノ略 ○世ハ世ノ略

代方面と姓傘に見根○竹よりちひろあらうげてもこう姓に仆のてるのんばし○高根二山嶽二傘小山名二丈○高の字ハッしかしこ云てしハの内し○てるき小名のてる後に○竹小条竹ちゃ竹ちゃ姓竹○玉ハし傘に玉四しれてるまハ三方し○竹小条竹ちゃ竹ちゃ竹こう姓

弦て又一○玉しゃ小玉の字二方姓別一字ハ○谷ハ二名和二傘に山二名和二谷の戸に戸ハ七方姓傘に谷の戸面と姓○竹小条戸ハ五ッの内し山名に名ハ二方姓

五し戸ハ八の内に戸ハ七方姓傘に谷の戸面と姓○竹小条

歩銭と○竹小管弦三方姓竹に無條○竹小川竹三方姓竹

三方去べし○滝ハ三名に二名のてる○滝山名に姓ハ川ハ○竹の宮

沖紙に名ハてる○竹てる竹こう去方を竹に竹田のる○堂二

こう方去

七方○塔ハ三名に一石塔又る○棚去久て二○龍一方に一辰の日をの内に又一方

○七夕ハ月日に二方姓月日ハ○七夕一七日に七夕に姓

法ひて八月に方に方に方に方に○七夕一七日に七夕に姓

七夕に天の川二方姓傘○たなの川ハ二方姓○田ハ田ハ姓○田小川ハ姓

不姓方に方に方字○田に田ハ姓○田小麻を法びて拙

下ハ方に方に方字○田に田ハ姓○田小麻を法びて拙

て小二方に方に方に方に○田に田ハ姓○田小麻を法びて拙

傘に玉ハ傘に○玉の清に傘に玉ハ姓傘に玉ハ姓傘に玉ハ姓

傘に方姓に○玉の清に傘に玉ハ姓傘に玉ハ姓傘に玉ハ姓

傘に一名の一○るる鄙山天に名に名に名

○薫物（たきもの）（薫の字二句）○澍（そそぎ）に（おそれ）（なし）（なし）（付合）○作（なし）
駒（なし）（不足）○田を作る（田を作る）（八句）（厂云）
（五句足）○立田（立の字二句）（田八句足）○氷室（ひむろ）の○立
田水（たみず）（多くの伝）を仕（なし）（なし）（なし）○蓑（みの）の松（山おろし）○旅（たび）の字
四（し）傘（かさ）（なし）（なし）（なし）○旅の空（たび）八句の内（くもゐ）（ごし）（なし）
（なし）（なし）（なし）○月影（つきかげ）に（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）
焼石（なし）○薪（たきぎ）に（なし）（なし）○種蒔（たねまき）（なし）（なし）（なし）（なし）
（なし）（なし）（なし）○稿（たかうな）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）
○焼火（たき）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）
傘（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）（なし）

○稚（ワカ）二字を云て二字
季をうて四字
○[illegible]
○たけき　[illegible]
古今の[illegible]
一字を一字[illegible]
[illegible]

ル　連歌に[illegible]
[illegible]
○[illegible]
[illegible]
[illegible]

のれハそのれ二句

○存（ノヱズル）の字 二斗を一存と存ずるなり

○月よみの神 名をつくり月よみの歌男 ○月の友（トモ）
名の神ハ名をつくり月よみ ○月 月を一つくり月よみ
人倫を始め給ふ神なり ○傘 月のかさ
月の友人倫を月を友人倫を始め
名をつくり月を友人倫を始め
一二月八日雪の中に一つ月を名付月を
但八つをつくり付けうしもつくり
名付の雲を八方をつくるなり
日月月 ○月のさかり 月を
ゆとりなく ○月に さかり月
ゆとりなく ○月 月
もとる姫 ○紫舟（ツナギフネ） 船を
繋ス ○月
江月
五 ○月の雪（ユキ） 雪を
入れハ月を姫ハ
月を姫ハ

ちくつぶまちくハ月をつくしつぶちくれ
百の月に月をもちくれ ○樫（カシ）うりに売り
月を出るうちつて ○月を月の出る者
月の月ハ二月く ○月の月 夜入まる
月何れも 月を月月月月月
月を月 ○雷（ツユヨブル）雷を雷 ○月に
月を月 ○雷別 雷
月を月 ○月に
月を月 ○月に
月を月 ○月に

○[illegible]れ林一枝[illegible]の業雅[illegible]○出筆に使
[illegible]ハ[illegible]大[illegible]筆のもに一百[illegible]と云[illegible]但筆の[illegible]きも白
[illegible]ハ[illegible]の字筆の字[illegible]不[illegible]天[illegible]菜[illegible]も出し
○翅に多用用[illegible]れし二百姓○常[illegible]火[illegible]
筆[illegible]白[illegible]て翅[illegible]
○[illegible]の姫[illegible]て[illegible]云[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ハ五つの内[illegible]
○徒[illegible]に[illegible]き○[illegible]
○[illegible]末[illegible]の字[illegible]筆[illegible]と姓○[illegible]筆に
[illegible]書[illegible]一書[illegible]書[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]○書に[illegible]
[illegible]○[illegible]て[illegible]

○使人[illegible]の使[illegible]
[illegible]二[illegible]又[illegible]の内[illegible]
○[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]○[illegible]
用筆に[illegible]
○[illegible]
[illegible]
○[illegible]の[illegible]に一[illegible]○[illegible]の
字[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]
(ね)[illegible]の[illegible]筆[illegible]○[illegible]

人偏○念者人偏に○寢の字押めるわらべ紙井
寢の字に用ひて○寢の字に用ひて○紙の衾に用ひ八七句は傘に
もちゐて云て一心上ゝつに寢るあり国眠る紙の七句は蝶に
のぬらし方のかの二首ゝ○嵐風ふく嵐大嵐本
ぬらし方のわらべ戸嵐ふく嵐ふく
くて哭○遠に傘に一出に一紙○眠て起て寝
ゝ国二句ゝ
○寢ふに一出に一紙○根
面は○青に蓑○猫一ゑびいのゝ
ゝてゝ一ゝゝ○祈
らひゝゝゝ紙○頑の糸に糸に行の上ゝ
(ナよ)波の蓑隆めに糸に傘○雑波に波の
波字ゝ

○蕗波尾花の波ゝ○波
ゝ○苗代苗に苗○涙
仰ゝ○涙の蕗に○涙
ゝ○名ゝの筆
水辺に○涙に油の蓑に
ゝ○波の蕗
沖に紙に船に沖の
ゝ蓑に蓑に蓑に
○ゝ水流ゝ
柱に柱に柱に柱に
ゝ柱に柱に

○涙（ナミダ）に人の泣（ナ）くこと二句略○人の泣（ナ）くこと二句略○滅（ケ）に袖の月二句略

○あるかれむるき二句略○嘆（ナゲキ）の本（モト）に二句略○嘆（ナゲキ）こと二句略

○慰（ナグサミ）に二句略○中天（ナカソラ）一中の字略○拉子（ナデシコ）二字の所略ぐ字略

○名（ナ）の字略拙子二字一所にして人の名の字略○名残（ナゴリ）名残の字略

表に略ぐ○名残（ナゴリ）二句傘に三句○鹿（ナビク）意の句に傘にしたがひ二句ぐ

ちびくこと二句七句略○名（ナ）ること略二又因の所略

付ちかこと又一句○涙（ナガメ）に又一句略月八句略○ちかこと略

反歌の句に傘に中（ナカ）に世の字略○中意二中ぐち二句略○中意中立一仲

人一句略嫉妬ちかこと八仲人○仲立（ナカダチ）人仲立中の字略○存（ナカ）

中立の内に一句略

傘二長傘に長永の字略三句略○

傘（カサ）の字略○なるとき略○なるとき略

傘の字略二句略○なるとき略○

○なるとき略○なるとき略○

○なるとき略○なるとき略○

○なるとき

[illegible]

傘に成の字こゝにもあり○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

○武蔵（ムサシ）　かうぶり　かうぶり　かうぶり

[illegible]

傘と書む虫なり虫みの虫とは[illegible]虫脇の虫なり[illegible]

なる虫なり[illegible]虫の字面を[illegible]

むしの字つくぬむしよりいろみ言なり

月なるこ[illegible]

[illegible]

○武蔵の弱引

[illegible]

○奇に[illegible]

○奇に[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]の字

傘に[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

○椎の字 [illegible]椎字の校又[illegible]二
[illegible]の字ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

○牛 一丑一○[illegible]
[illegible]

○浮木 [illegible]

○埋火 [illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[

○うつぼ　空穂　矢をもりこめる
うつぼ　○うつぼ　空穂　矢をもりこめる
○うるの字　四つ　○うる　一位　桂　桂
○うるの字　四つ　○うる　桂　桂
だてに色ついて桂ちらす　袈裟　桂　桂
そのえをうつし　樫　桂　桂
ふくらぐ　みぐし　みをうし
ふ世ホハ　をうてまぐし

○いもり　蛇　井　蛇の血　ハ　女の　ゆ　ゆ　女
ちきたあれハ血　ぐ　ん　○　石　井　井
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
○　井　井　井　井　井　井　井　井　井　井
○　井　井　井　井　井　井　井　井　井　井
○　猪　猪　猪　猪　猪　猪　猪　猪　猪　猪

猪名　名　名　名　名　名　名　名　名　名
名　名　名　名　名　名　名　名　名　名
○　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場
射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場　射場

の

法　仏法　法の原　法四　法　法　法　法　法　法　法
傘　この　一　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法
法　法　法　法　法　法　法　法　法　法　法

傘と師匠と門一八○後の字ハ○鈴の字ハ
ちがひなれども○斬四と傘と四上ニのきハ○鈴れ
四上ニのきハ○鈴れ四と○のきれ菖蒲ちがひ
○のきれ菖蒲ちがひ○鈴れ四と○もちがひ
ニ白ハ傘と書ニうら一ニ文字○のぼられ上のぼ
ちがひ○ハ一ニ四ちがひ○のぼられ上のぼ
もニ白○鈴の字ハ○呑と云字四と生所
ちがひ○鈴の字ハ○呑と云字四と生所
ハ白ちがひて○能二能ハ能と云ハ能の脇ハ
又ちがひ○能二能ハ能と云ハ能の脇ハ
つれ白偏ハ能ハ能ハ能偏ハ能ハ能偏ハ能
○四里ハ白ハ能ハ能ハ能偏ハ能ハ能偏ハ能
○四里ハ白ハ能ハ能ハ能偏ハ能ハ能偏ハ能
ハ能ハ能ハ能ハ能ハ能ハ能ハ能ハ能

尾上三内一八名○奥（シコロ）の字八ツ○義（ヨキナ）紙の義字なり義本仮も虚儀と牧

○親（ヤ）虚儀と用ス又斗もりなり○親子二百姓親子てきてる人倫○男（ヨトコ）ちうて四斗なり

傘と男子内一八ろくとあるうてさしてしてとまりとそたりれそのあれをとしうてこを男と姓七百さとと姓

○とり　暗（カモ）に暗しきくハちうくこ鬼を浴いて○鬼（ヲニ）一さちう一

り見ろうくれをを姓子のけやけき○落葉（ヲチバ）二名下の義

地ハ仙ヤゆうてもおりをを姓ぐ葉ちだ二ちうだ

とくくれをを姓義ぐみをくれ松のうばうを新く○親（ヤ）一ちうぐ

柳ちうるを系うりちるハ井ちうく　とや一

をちうよ　○おとれ　ちうくく　意人倫○大井川に

ちうこ　○おとれ　ちうくく

おやをを　○尾笠（オバナ）尾のやよりの花のやよりく二百ち

ちうくく　傘こ尾笠のなかもこ百姓○あくて

梯子二百ち傘と○立秋（ヲキ）一年をとくてみ二ツもちこ傘こ

ちうくくこ百姓○立秋一位の中ち一位の傍秋の

ちうくくちうこ百姓ちうこ一こ一こ一こ秋の義不秋の

秋二百姓但秋のちうく○思ひ出　梯ちうこ傘こ

ちうぐこハ思ちうこ姓

に二百

の中ち○あのひ　ちうくこ百姓あのひの娘傘中ち二百ち思ひ中ち

河一こ三ちうち○おぼゆ　ちうにちうこ傘こ思ひ中ちの中ちの字ち二百ち傘こ思ひ中ちの

○面（ヲモカゲ）影　ち一こ一面の中ち新の中ちち二百ち傘こ面新三○起（ヲキル）　ちうち

又陰の中ち二百ち傘こ面新三○起　ちうち

ちうち一切の　ちうち

藤さい起ちうく○おぼろ　ちうけ　ちうち月と○涙（ヲ）

ちうち月ちうち月と　ひそぐハちう

ハちう　ちうち月と○涙（ヲ）

ハちうくちうちうこ傘こ○涙しく　ちうとくこ

ちうくこ　ちうくこ

七夕こもんぜみ○市に（ゴ）曇勝（ボロッキヨ）二百○大（ヨホ）の字四つ

ごぜんぜ（ゴ）

ぜんぜんの大の字大字大字ぢ（ヂ）三百姓○大（ヨホ）ぢ（ヂ）ぢ（ヂ）ぢ（ヂ）

たゴ大各も口ぢ（ヂ）ん（ン）ぢ（ヂ）ん（ン）ぢ（ヂ）ん（ン）四つ

○杉（スギ）須は毋（ヨ）毋（ヨ）用○米（ヨガム）沙仏月日のるゝ元

ハ二百さ（ザ）ぶ（ブ）ぢ（ヂ）ぢ（ヂ）ぢ（ヂ

二百四十五字○花稚 雛人形のことなり ○椿の葉
○海月 月水母 ○樅 こうげ樅
○水鶏 ○鮑 ○梔
○串柿 ○熊 ○車 呂二法の車一名車
○蓑 ○蚯蚓 二百四十五字○食の字
○口に吸ふ 口人の口に口口口

[illegible]の雲のうへ　おかく[illegible]
傘と山のうへ　二句ちがう

○山焼　山焼雑人伝

○歌笠　山吹色の云々　山のかの面白傘　歌笠一
[illegible]

○山の辺　極辺　二句秋　白樺うるべし　○山れ　二句姫

○山里れ　柴の戸　柴の房

○山のくれ　好む　二句姫　○山りとれ

○山陽れ　山のくれ　陽あの下　山とる
二句姫　陰一山のれ　陽ごとくとくとくとく
ここ山の傘のあるあ　山のめ　きとりみぢ

○山柴　○八重　八重

八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜
八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜
と　[illegible]　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜　八重の桜

三、百姓

○矢　矢の字の矢のこと

○矢にて　矢にて射る姿

○流鏑馬　流鏑馬は神社に奉る

○廂にて　廂にて射る姿

○流て　流て射る姿

○和やま　和やま

○疑のや　疑の矢

○うゝひの矢　小さく、ほそく、ほそく、ほそ

憲二句脚

○まゆ　眉の字　眉の字　眉の字

[illegible]

○加茂川　[illegible]

○[illegible]　一名二白姓

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

を姓信の月一字ハ○みをうれ芦田鶴うくひの
姓物名迫た二字姓　辺ちよ
うを姓○姫のすれ又ふ二字姓○刑づけ、第二字姓○つぎき
風ちう姓つ物ハ名ハ名ハ名

○仙試（こうらさし）　二句し　○檢現（ゴンケン）　仕様こ　○仏の月

○仏の杉　仏の杉に生ずる傘を仏杉と云　○仏の杉　仏杉の字

形同　○四の芝　西の芝と云　二句し　○心化杉　心化杉の字

○仏の馬　仏の馬に生ずる傘を仏馬と云　○仏の友　海苔

所ごろ　○心の闇　松ふくろ　ぐちの公と云　○子　一名獄の子　ういこ

○子にまれの子七月迄行の子　二句し　傘曰子行のこういこ

○子と爲む子も長し　○子しむすこ　孫　詞の子

似の子の面と姫　古筆（コヒツ）　扇八月の面こ　○木の葉衣

○木の葉　此の葉　○この葉　木の葉に木の字葉の字葉こ　二句し

○葉ちるに　多山洗き　ふるとはなし　○柿（コヅヘ）　柿はし木の字　木の字葉こ　二句し

○市に　ちらしは面と　○木の葉　○木の葉に木の字葉の字葉こ　二句し

○木末の秋　木の秋　二句し　○衣（コロモ）　衣　衣の字

衣の衣　○九重（コヘ）　都　都と姫　傘曰九重　赤ず

名所と非ス　姫の衣　衣と姫　てのの字杯の内こ生ず

ちに一ま　九重　城　きこ　一句

九文字八内二こ　傘の字

面　ふ七月　こ　かま　ふ　二句

生　ふ　ふ　ふ

○苔の衣　非ス　○苔の色　非ス
○苔　蓬　非ス　○ことの葉
詩の歌　非ス　○この葉さる
本朝文粋　○木柏　共一こと　非ス
三月こと葉の子　○こと
ハ二月也　に　葉のうち
の葉　言　○こと葉の
○言　○詞　二ことのくさ
ことの道ハ　○夜所　○詞
麗に小の字　○こ　地

○氷　二月　氷室ハ　氷室ハ
五月の内　氷室ハ　月波　氷室ハ
二月　氷ハ　氷ハ　氷ハ
○憲種　○頃の字　○沈
時　○敵　○後家
○氏　○人倫　○朝
○云　○諺　○云
白し　○云　○こと

○昆布　○こでり　餅
○こしらへ　○蒸て　○
○巨燒　○小鷹
○蕎の子　○蕎の山
○胡蝶　○氷の
○蝦　○流し　○蕎の
○天子　○天空　天狗
○天の子　○天の水
○天の字　○手の字

○海老　二月名　二條の口　○箙　海面
○海に　海辺　海の子　海の内　海の
○東　東の方　東の
○天　天の子　天の
○天の字　天の字

（中略）

○寺の字 四ツ

○鉄鉢 鉄鉢ハ金剛峯寺東禅院ニ有ル由ニ聞ク但シ井ノ内ニ有ルヲ見タリ

○金剛峯寺 金剛峯寺ハ堂坊ホセ白シ（中略）

○天 四ツ

○河 河ハ舟ニ乗ル

○舟 舟ハ水辺ニ有リ

○あげま 二ツ

北海 [illegible] あつまやこ東
七夕 [illegible]

○霰走 [illegible] 嵐山
[illegible]

月 [illegible]
[illegible]

月 [illegible]

○朝の月 [illegible]

○曉 [illegible]

○夜 [illegible]

○明方 [illegible]

○曙 [illegible]

○春 [illegible]

○秋風 [illegible]

○秋の末 [illegible]

○夢 [illegible]

一名ハ大二寸陽二寸ヤウ一行ハ小形ト称傘ニ寸ノ骨
ハ八四ノ骨ハ八ツ四ノ骨ハ八ツ
迄ニ○蚊帳（カヤ）
○蚊帳（カヤ）極細ノ麻迄ニ
ハ極細ノ麻迄ニ
○蚊帳（カヤ）
○蚊帳（カヤ）
○蚊帳（カヤ）

○泡代の座　二百文
○のらぐ　人偏もの　人偏に分人　傘に
人偏　○あるじ　二百文　○あつきもち　二百文
○あつぶり　二百文　○あらまき　二百文
○あらまき　二百文　○あらまき　二百文
○あらまき　二百文　○あらまき　二百文
○あらまき

[illegible]傘○毎年所[illegible]○山桙[illegible]
[illegible]の[illegible]山桙の[illegible]山桙の[illegible]○[illegible]の[illegible]月[illegible]
[illegible]用ゐる日[illegible]
[illegible]傘[illegible]酒[illegible]二[illegible]酒[illegible]
[illegible]の[illegible]○酒[illegible]二[illegible]酒[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]○[illegible]れ[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]○

○行人（こうにん）（おこないびと）の如し　○さのみ　岸（キシ）　口二名あり　二うの名ハ

表（おもて）ばかり　傘（かさ）　○君（キミ）　二人共の名のうしろ人偏（にんべん）に尉の字を加へ

みな四の内　○君（キミ）　二人共の名みな二人偏も尉の字も加へる

共に名の字二の字ばかり　○丈（たけ）　丈（たけ）　○丈（たけ）　丈（たけ）　○丈（たけ）　丈（たけ）　○丈（たけ）　丈（たけ）　○丈（たけ）　丈（たけ）

○丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　丈（たけ）　

のちるもしきあり　とこうもしきあり　きえぬ白ふ
金を別のなる鳥のくんのらハ二百ゑのきめ〳〵ハ白ゑ
飛る花のきあり〳〵も云ハ飛る花ゑ百ゑ　ぎ
うくんこ白ゑのハなぶ　ゑ花ゑ百ゑ　花ゑ百ゑ
○きちらきに　月次の月　○土ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　

○雪　四くゝ[illegible]ものとハ月の[illegible]傘に
[illegible]五の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]雪も[illegible]万葉[illegible]
みだれあふと[illegible]
[illegible]ぬ　○雪の[illegible]
[illegible]ゆく[illegible]　○夕の[illegible]
ハくゝタべゝ[illegible]傘に夕の[illegible]五月一せきしあり[illegible]
[illegible]夕の[illegible]い上ハくゝ[illegible]ハ
[illegible]　○夕立　一夕[illegible]
[illegible]の[illegible]二句[illegible]
○夕べ月　ハ夕の[illegible]　○白雨　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]傘に
[illegible]　○夕[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]　○夕[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]紙[illegible]傘に　○夕月　一[illegible]傘に[illegible]
○夕月　[illegible]秋の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]　○夕に　日[illegible]日[illegible]
[illegible]ハ二句[illegible]　○夕暮　一夕[illegible]
[illegible]　○夕[illegible]　[illegible]ハ[illegible]
[illegible]傘に[illegible]ハ[illegible]
[illegible]　○夕顔の宿　[illegible]
[illegible]傘に[illegible]ハ[illegible]
[illegible]　○弓　[illegible]二傘に[illegible]
[illegible]　○[illegible]に[illegible]
[illegible]　○ゆうけに　二句　○床　[illegible]
[illegible]　○夢　[illegible]
[illegible]　○[illegible]
[illegible]

初へていうつゝよりうれてあるこゝろもとゝ○夢にうゝねさらさむるうちゝ何れも二句きゝ由○夏の世界分神ゝ夏花又作ゝ夏草ゝ夏ひるぐきゝ云ハ○夏に国初ゆかるゝどうむおゝ旨七句○行に向後作る ゆゝ行ゝ夏ゝ二句○り来一り来一傘ゝ りゝ二ゆゝゝゝ

○ 張階 二百五十文

○ 都 二百文

○ 水 二百文

○ 水 二百文

○ 水 二百文

○ 切 二百文

○ 清水 二百文

○ 清水 二百文

○ 清水

姫法上を出しもの用一傘に字○見にうらこやしこ
ゝ紙ものの紙ハ面とこさしゝ
二句姫用し二句しとゝ○車二句と云
ゝとゝの文ま二句く二○多代毛二句傘
ゝく○短夜二句やゝきゝ夏の朝一○水鹿にゝ
こゝ但夏紙を絞ばゝ文ゝゝ
松ハゝ迄○星ハ七月の月歌のゝゝハ文ゝぐゝ○年に
軍ゝ二句○見めて月七句姫

○清水ゝ云ゝ傘に清ゝにきよきゝ
ゝきの字句中姫清水ゝ清水ゝゝ二句
姫清ゝ○白絹ゝ字ハ文面ゝ
ゝ云ゝ○白水ゝ字ハ文面ゝ
ゝ云ゝてゝ文さゝ白ゝゝゝ四の句ハ月を
姫ゝ月ゝハゝゝゝめ紙ゝ傘ゝ

ゝ傘ゝゝゝ

○忍冬（シノブクサ）　秋の草の内に忍冬の事は
○忍摺（シノブズリ）　うくめ摺ともいふ
○忍車（シノビグルマ）　高くは忍ぶ車のことなり
○志賀の山　高き所にあり
○志賀の浦　高き所にあり
○志賀（シガ）　志賀の浦に同じ
○柴（シバ）　一所歩行一束
○雉子（キジ）　雉子の羽
○雉子（キジ）　雉子の羽
○雉子（キジ）　雉子の羽

○精進料理 紙に似たるもの ○燭奠に出る七日 ○將棋 ○髪飾 ○尺八に笛 ○土瓶 ○將棋

元祖百貫と二句 ○ぶらこ ○皆所 ○傘 ○ぶらこ

面白 ○下の字 ○ひげ ○下駄 ○下

○八別 ○家紋 ○八重の ○紙の字 ○紙の字

○下紐 ○下の字 ○下帶 ○衣紋

○上戸 ○人偏 ○下もく ○白梅

人偏 ○男 ○姑 ○出家 ○人偏

○珠數 ○墨 ○傘 ○青 ○八

傘 ○東雲 ○白髮 ○鹿

○園 ○芍藥 ○師匠 ○絵

○海老 ○法華

[illegible]

○恵義（エビ）酒（サケ）　紙（カミ）　[illegible]

[illegible]

東東西　[illegible]

[illegible]

○傘　[illegible]

○醉（ヱヒ）　一両の[illegible]

[illegible]

○東（ヒガシ）　三軍　[illegible]

[illegible]

○常陸帯（ヒタチオビ）　紙（カミ）

[illegible]

○姫（ヒメ）　[illegible]

[illegible]

○他国（タコク）　人のもとに二匁程傘と

人命に[illegible]

○獨（ヒトリ）　人命に[illegible]

[illegible]

○[illegible]女の名　[illegible]

[illegible]

○日に　月のみ　[illegible]

[illegible]

○日待（マチ）　紙　[illegible]

○日の[illegible]

[illegible]

○聖（ヒジリ）の代（ヨ）　人命に[illegible]

[illegible]

○貧者（ヒンボウシャ）　[illegible]

[illegible]

○日傘　[illegible]日も[illegible]
傘と日傘[illegible]
[illegible]上[illegible]
[illegible]蝙蝠[illegible]
[illegible]蝉[illegible]
[illegible]

○光月日　雷　雷月石形　[illegible]
[illegible]
[illegible]

○花　[illegible]傘[illegible]
[illegible]
[illegible]

○一村　一村[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○久[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○火　[illegible]
[illegible]
[illegible]

○檜原　[illegible]
[illegible]

○一系の船　[illegible]
[illegible]

○屏風　[illegible]
[illegible]

○氷室　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○ひろひろ　ひろきこと　[illegible]

○むやう　二枝し傘と和秋　むやう　[illegible]

○むらぎと　[illegible]

○百の字　二之

○楸　秋

[illegible]

○引板　秋　稲の[illegible]

[illegible]

○もみぢ　紅葉　一名[illegible]

[illegible]

○紅葉　[illegible]

○もみぢして　[illegible]

○紅葉にて　[illegible]

○しげ　[illegible]

○嚴上川に　[illegible]

○もみぢ　[illegible]

○股と実　[illegible]

○物思　[illegible]

○物と　[illegible]

人偏に坐するハ○秒字に坐する筆に坐する○川跡天武人偏不坐○百
人偏に坐するハ○千鳥に坐する○賭に坐する○茂に坐する○
○催に坐する○森に坐する○百敷に坐する○武士
に坐する○森に坐する○百敷に坐する○武士
の内に坐するハ○もろこし朝鮮に坐する○
ハ四

夏二秋ニ
○竹扉（スダレ）　二ツ　一行　一軒屋一軒連ニ一ツ　一行　一屋　一軒
一ツ　一行　一屋　一軒　一ツ　一行　一屋　一軒　一ツ　一行　一屋　一軒
二い上
○洲（ス）　砂ト白沙　一軒　一所ニ一
二く
○州（ス）　砂ト白沙　一軒　一所ニ
○菅（スゲ）　水辺ニ生ス　一軒ニ
夏ニ一ツ
○ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ
夏ニ代　夏家ニ代ル　一ツ　一ツ　一ツ　一ツ　一ツ　一ツ　一ツ　一ツ
○栖（スミカ）　ニ二ツ　ニ二ツ　ニ二ツ　ニ二ツ
○住家（スミカ）　住ノ字ニ二ツ　家ニ二ツ
○ちとせいかる　ニ住ノ
字ニ二ツ　ニ二ツ
○里雲（スミツメ）　深（ツメ）　雲ノ字ニ二ツ　深ノ字ニ二ツ
ニ二ツ　ニ二ツ　ニ二ツ　ニ二ツ
○貸（スイメイ）　貸ノ字ニ二ツ　貸ノ字ニ二ツ　貸ノ字ニ二ツ
○深（ふか）　深ノ字ニ二ツ　深ノ字ニ二ツ　深ノ字ニ二ツ
○冷（スサマ）　冷ノ字ニ二ツ　冷ノ字ニ二ツ　冷ノ字ニ二ツ
○深（ふか）　深ノ字ニ二ツ　深ノ字ニ二ツ　深ノ字ニ二ツ
○薄（スキ）　薄ノ字ニ二ツ　薄ノ字ニ二ツ　薄ノ字ニ二ツ
住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ

八作刷ノ紙　紙ノ色　紙ノ色
○里雲（スミツメ）　雲ノ字ニ二ツ　雲ノ字ニ二ツ　雲ノ字ニ二ツ
○ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ
の紬（つむぎ）　紬ノ字ニ二ツ　紬ノ字ニ二ツ　紬ノ字ニ二ツ
○ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ
二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ
○篠（スノ）　篠ノ字ニ二ツ　篠ノ字ニ二ツ　篠ノ字ニ二ツ
○ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ
に世ト　ニ世ト　ニ世ト　ニ世ト
○ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ　ちとせ
二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ　二ツ
○炭（スミ）　炭ノ字ニ二ツ　炭ノ字ニ二ツ　炭ノ字ニ二ツ
○楢（ナラ）　楢ノ字ニ二ツ　楢ノ字ニ二ツ　楢ノ字ニ二ツ
に住（スステビト）　住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ
○家（いへ）　家ノ字ニ二ツ　家ノ字ニ二ツ　家ノ字ニ二ツ
○家（いへ）　家ノ字ニ二ツ　家ノ字ニ二ツ　家ノ字ニ二ツ
い上ニ
○住（すま）　住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ　住ノ字ニ二ツ
名所ニ　名所ニ　名所ニ　名所ニ

○[illegible]

井辺(ヘイヘトシテリヲスコモ八ナハ谷ヘ)の[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

○[illegible]

○[illegible]

○仇[illegible]

○[illegible]

○一[illegible]

○二[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○河[illegible]

○二[illegible]

○二[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○形見草　我思ひうつて花の咲なくに何をいのちの[illegible]

○息吉草　[illegible]

○[illegible]見草　山をそめ水[illegible]

○[illegible]　昔の[illegible]

○[illegible]待草　水[illegible]

○水[illegible]草　[illegible]

○池見草　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○取水立雪　うくひすの川の夕霧を
　　氣の
○不可思議　月出て
　　花さく
○名取川　行人の
　　時しらぬ
○且見草　みちのくの里のあさゆふ
　　沼
○夜白茅　ひさかたの雲
　　
○心草　いさ
○源蓍草　さゝ
○手別草　

○風呂草　
○風青草　
○神見草　
○庭見草　
○佐保草　
○紅葉草　
○霧隠草　
○水源草　

○松の葉の変れば玉紫の雪のうちをもうつるかな

○庭の面吹風の音やかすかに聞ゆ秋の夜の月

○鏡の面明るかぬ月の影の新しかりけるかな

○夕顔の花咲ぬ夏の日の暮ぬ間の思ひ草

○思草雨降る野原の思ひ草成ぬる時に花ぞ咲ける

○形見草ちるとも見ぬ花ぞ咲ける

○百草の花咲ぬ間の思ひ草

○夏草の露の玉ぬく時雨ぬ

○河玉草秋の末ハ紫の雲のうへ川玉草に出ぬ

○夕玉草月の玉ぬく時雨ぬ

○夏草の時雨ぬ

○秋草の花咲ぬ

○神無草百草咲ぬ

○ひとりかくて月のかげ

緑草

○親子草年の海ぬ

○六月廿五日

○雜の部

○夕見草　野辺の夕顔

○暮見草　月の光

○朝見草　月の出

○朝見草　月の出

○朝見草　月の出

○朝見草　月の出

○朝見草　月の出

○憲秋　月の出

○同廿日　月の出

奥書

加

法華経の義をかりて養父のたまへる

をきて物中は有てふみと案

家に朱丹にてきぶやゝ帽子に

ゑがきをきて千

反読誦して靖ち入道と形で